

お早めの受診をおすすめします。

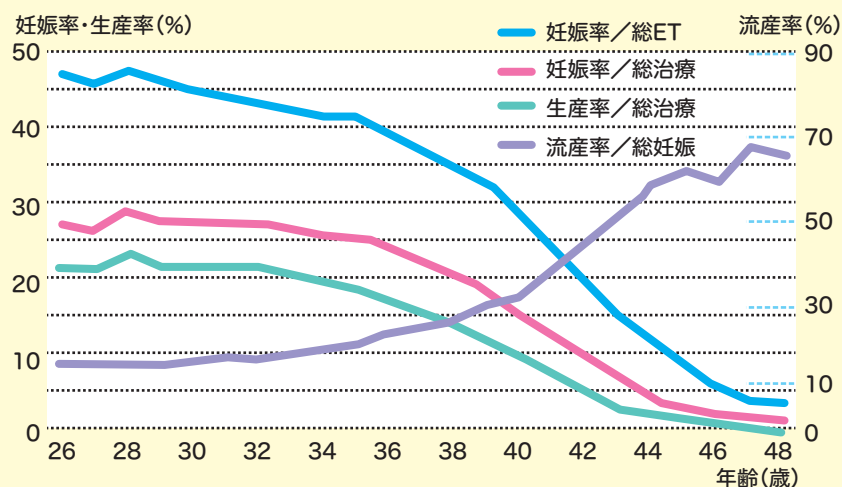
KYOTO MEDICAL ASSOCIATION

BeWell

医師会からの健康だより

発行/京都府医師会
これだけは知っておきたい健康の知識 VOL.101

ART妊娠率・生産率・流産率 2020



●卵子は年齢を重ねるにつれ減少

医療技術の発達により、不妊治療の選択肢も増え、保険診療となることで治療を受けやすくなりました。ですが、人間の体が妊娠しやすくなったわけではありません。女性の卵巣には胎児期にできた卵子が詰まっています。卵子は出生後新しく作られることはなく、次第に減っていきます。

●早めに妊娠を目指すことを勧めます

20歳の女性が排卵している卵子の年齢は20歳、40歳の女性が排卵している卵子の年齢は40歳です。年齢を重ねた卵子は細胞内の構造が壊れてくるため、妊娠しづらくなります。どれだけ医療が発達しても妊娠適齢期を過ぎると妊娠しにくくなります。不妊治療があるからまだ大丈夫と思わず、できるなら早めに妊娠を目指すことをお勧めします。



不妊治療 Q&A

Q どの医療機関で保険診療を受けることができますか？

A 保険診療を行う場合は、各医療機関が地方厚生局に届出を行うことになっており、厚生労働省において医療機関一覧を掲載しております。診療の内容等については、掲載されている医療機関に直接お問合せ下さい。

Q 先進医療を受ける際には、何か手続が必要ですか？

A 治療内容や費用について同意が必要になりますが、それ以外に患者側に特段の手続はありません。なお、先進医療は、医療機関ごとに実施可能な内容が異なりますので受診される医療機関とよくご相談ください。

Q 採卵は、複数回実施することはできますか？

A 保険診療で採卵を行う際は、治療開始時に医師が作成する治療計画に従って行うこととなります。その際、医学的に必要と判断された場合は、複数回採卵を行うことも想定されます。(例えば、採卵を行っても卵子が得られない場合など)。

※厚生労働省資料より

なぜ妊娠しないの？と思ったら…

不妊治療

KYOTO MEDICAL ASSOCIATION

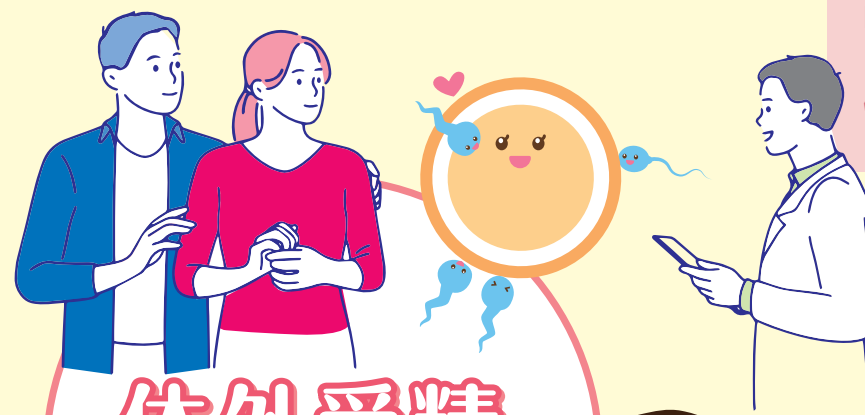
BeWell

医師会からの健康だより

発行/京都府医師会

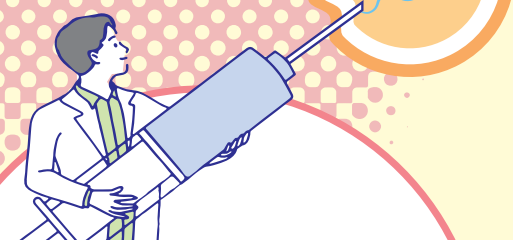
これだけは知っておきたい健康の知識

VOL.101



体外受精

体外受精は、高度な技術と設備が必要ですが、妊娠率の高い治療法です。



人工授精

人工授精は費用が安くて負担が少ない治療法ですが、年齢や原因によって成功率が異なります。



2022年4月より高度な治療も保険適用となっています。
最適な方法を見つけるためには
早めの検査が大切です！

一般社団法人 京都府医師会

〒604-8585 京都市中京区西ノ京梅尾町3-14 TEL:075-354-6101
<ホームページ><http://www.kyoto.med.or.jp> <E-mail>kma26@kyoto.med.or.jp

●発行 SPRING 2023●

BeWell
バックナンバーは
こちら！



2022年4月より

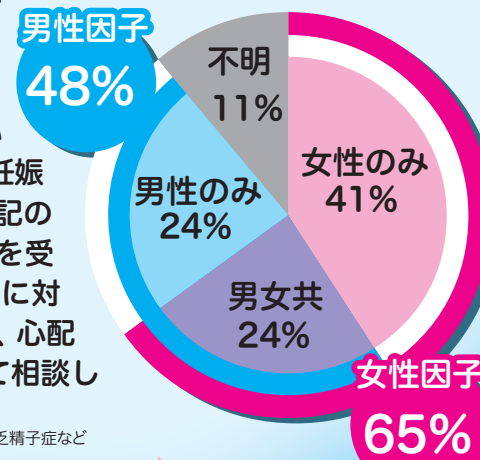
不妊治療は保険適用

拡大しています!



不妊とは?

「不妊」とは、「妊娠を望む健康な男女が避妊をしないで性交をしているにもかかわらず1年間*1 妊娠しないもの」とされています。ただし、医学的な理由により不妊治療をしなければ妊娠できない場合*2 は不妊期間によらず不妊症と診断されます。不妊症の原因としては女性因子(排卵、卵管、子宮、その他)と男性因子(精液など)があります。不妊カップルの中で、女性因子が原因になっているカップルが全体の3分の2、男性因子が原因になっているカップルが全体の半分くらい(重複あり)いらっしゃいます。なので、女性だけががんばっても妊娠できないことも大いに考えられます。とはいえ、上記の不妊症の定義に当てはまらなければ治療や検査を受けられないわけではありません。妊娠そのものに対して、または妊娠ができるのかどうかなど、心配があればお気軽に産婦人科を受診して相談してください。



*1 日本産科婦人科学会の定義
*2 両側卵管閉塞、高度排卵障害、高度乏精子症など

2022年4月より、以前より自由診療として行われていた人工授精や生殖補助医療(採卵、体外受精・顕微授精、胚移植)が保険診療で受けられるようになりました。生殖補助医療には年齢制限や回数制限がありますが、以前より軽い経済的負担で治療が受けられるようになりました。不妊で悩む若いカップルにも治療を受けてもらえるようになったのは嬉しいことと思います。保険適用されなかったいくつかの技術に関しても、先進医療として保険診療のオプションとして治療が受けられます。

不妊治療のステップ

1 検査

保険適用

超音波検査

超音波を利用して、卵胞の発育や排卵日の確認、卵管の通り道や子宮内膜の厚さなどを確認します。

精液検査

男性の精液を検査して、精子の数や運動率、形態などを調べます。

血液検査

女性のホルモン値や、男性の精子の生成に必要なホルモンなどを検査します。

卵管造影検査

卵管内に造影剤を注入して、卵管の通り道や異常があるかどうかを確認します。



2 タイミング法

保険適用

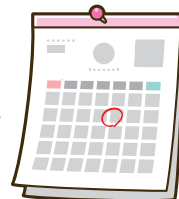
子宮頸管粘液法

排卵日に近づく、子宮頸管から出る粘液の量や質が変化します。この変化を観察し、排卵日を特定し、その日に性交する方法です。

不妊治療の第一歩です

排卵誘発剤を使用した方法

排卵誘発剤を使用し、卵巣から卵胞を成長させ、排卵を誘発させます。排卵日に性交するように指示されます。



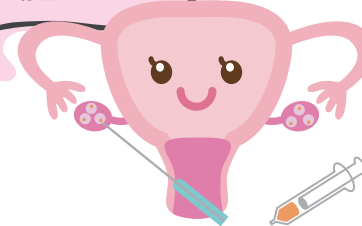
3 人工授精

保険適用

子宮内精子注入法

夫の採精液を直接子宮内に注入する方法です。

比較的簡単な治療ですが、妊娠率が高くないため繰り返し行うことが必要な場合も...



4 体外受精

保険適用

① 卵巣刺激

排卵誘発剤を使用して、多数の卵胞を卵巣に成長させます。

② 卵子採取

卵巣から成熟した卵胞を採取します。

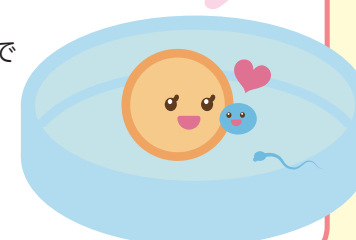
③ 受精

卵子と精子を培養皿などで人工的に受精させます。

④ 移植

胚盤胞を女性の子宮内に移植します。

体外受精の技術は日々進歩しています

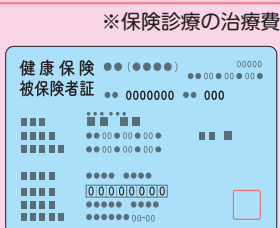


不妊症の検査としては、採血でのホルモン値や感染症関連の検査、内診での超音波検査や子宮がん検診、膣の細菌検査を基本検査とし、卵管や子宮内の検査もあります。男性側も精液検査を行います。その後検査結果とカップルの年齢によって適応となる治療を開始します。タイミング療法はどちらかの卵巣に卵胞が育つのを超音波検査で確認して、排卵のタイミングに合わせて自宅で性交渉してもらうという治療です。卵胞の育ちが悪いときなどは排卵促進剤を適宜使用します。人工授精は、上記タイミング法で自宅で性交渉してもらう代わりに、自宅もしくは院内で採取した男性の精液を調整して濃縮精子液とし、これら子宮内に注入する治療です。これにより卵子に到達する精子が増えるため妊娠率が向上します。受精より後は自然妊娠と同じです。生殖補助医療は、排卵誘発剤を使用して卵胞を育てた後、採卵(卵巣を経腔的に穿刺して卵子を採取)して、体外で受精させ、数日間受精卵を育てた後に子宮内に戻す(胚移植)技術です。人工授精より格段に妊娠率は高まりますが、専門的な技術や知識が必要ですので実施できる施設は限られます。

Point! 窓口での負担額は治療費(※)の3割負担



治療費が高額な場合の**月額上限高額療養費制度**もあります。例えば、年収約370万~約770万円(健保:標額28万~50万円、国保:旧ただし書き所得210万~600万円)の方は、**自己負担額が1カ月あたり8万円程度**になる見込みです。具体的な上限額や手続は、ご加入の医療保険者国民健康保険で異なるため、お住まいの市町村の担当窓口にお問い合わせください。



※厚生労働省資料より

Point! 年齢・回数の要件(体外受精・顕微授精)



保険診療でも、令和3年度までの助成金と同様に以下の制限があります。

年齢制限	回数制限	
	初めての治療開始時点の女性の年齢	回数上限
治療開始時において女性の年齢が 43歳未満 であること	40歳未満	通算6回まで(1子ごとに)
	40歳以上43歳未満	通算3回まで(1子ごとに)

※厚生労働省資料より